

## 配信資料に関する技術情報(気象編)第165号

～台風進路予報の改善について～

最近の台風予報精度の向上を踏まえ、平成16年6月1日から、台風の進路予報に使用する予報円を小さくします。

### 1. 改善の内容

台風の予報円の半径は、過去の予報の精度検証結果から、台風の移動方向や速度などに応じて予報時間毎に決めています。

近年、数値予報技術の改善等により予報精度が向上しており、平成13～15年の予報誤差を検証した結果、これまでと比べ、平均で約10%、移動速度が大きい場合には約25%、予報円の半径を小さくすることが可能となりました。この結果を踏まえ、台風の進路予報における予報円を小さくすることとしました。

なお、この改善に伴う電文形式の変更等はありません。

#### 【参考】

台風の予報円：

台風の中心が12、24、48 および72 時間後に到達すると予想される範囲を円で示したもの。台風の中心が予報円に入る確率は70%である。

### 2. 改善の実施日

この改善は平成16年6月1日から実施します。

### 3. 改善の例

図1は、平成15年8月6日21時発表の台風第10号の予報に新旧の予報円を適用したものです。点線が実際の予報に使用した予報円、実線は進路予報改善後の予報円です。また、図2に、実際に発表する予報の例を示しました。

この例のように、今回の改善により予報円・暴風警戒域ともに大幅に対象地域が小さくなりますので、対象地域をより限定して台風に対する備えを行うなど、効果的な防災活動を行うことができるようになります。

また、この改善により、台風の暴風域に入る確率の値も、暴風警戒域内の値はより高く、域外の数字はより低くなり、暴風域に入る時間帯等の判断がより容易になります。

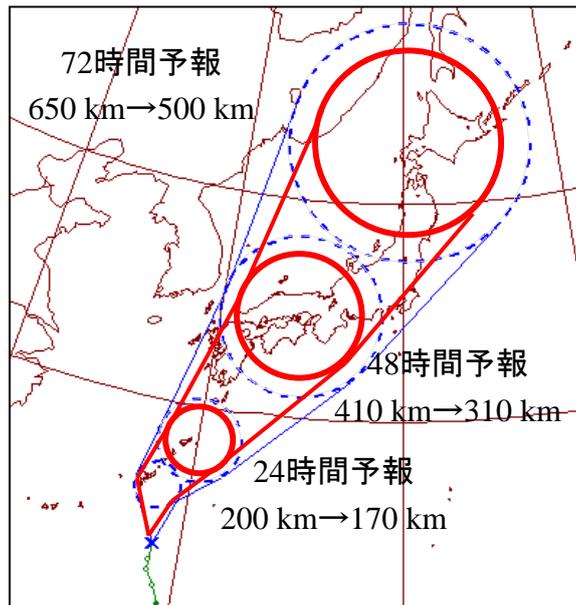


図1 新旧予報円の比較（平成15年8月6日21時発表の台風第10号の予報例）

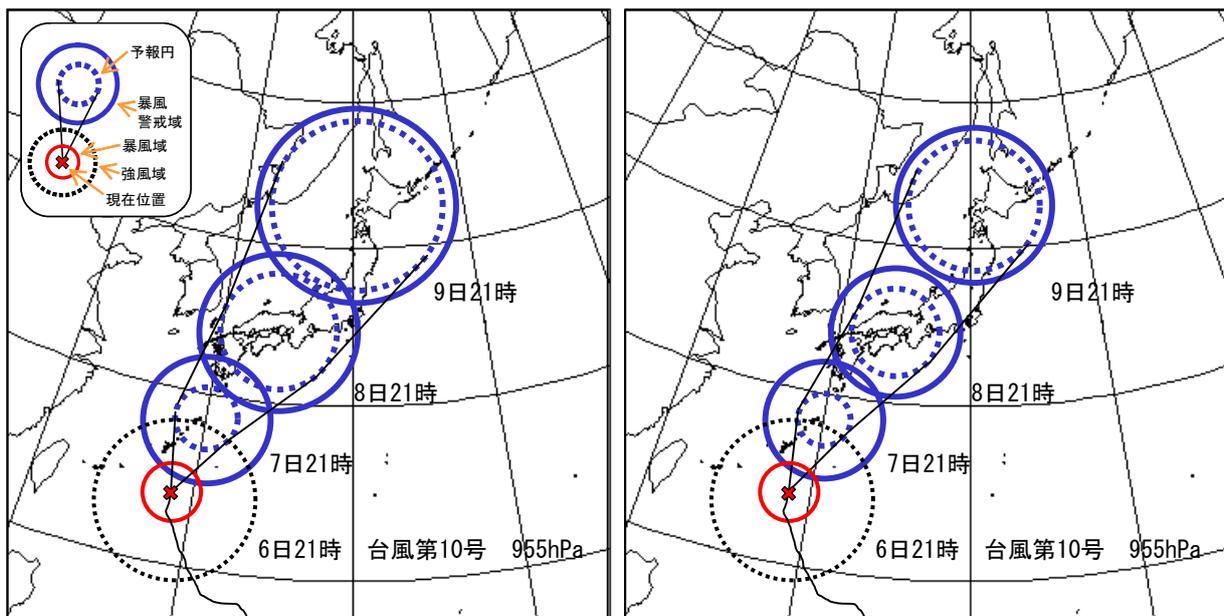


図2 台風進路予報の例（図1と同じ予報例、左図は従来の予報、右図は改善後の予報）